

### 公民科（政治・経済）学習指導案

#### 1 単元名 現代日本の経済（福祉社会と日本経済の課題）

#### 2 単元の目標

- (1) 中小企業の現状と課題、雇用と労働問題、社会保障と福祉社会の実現について理解する。
- (2) 考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- (3) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分にできることを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 現代の日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

#### 3 単元の指導計画

##### (1) 指導計画（全体 10 時間）

- ・単元の導入 1 時間
- ・中小企業と農業 2 時間
- ・雇用と労働問題 3 時間
- ・社会保障と福祉 3 時間（本時 3 / 3）
- ・単元のまとめ 1 時間

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の現状と課題、雇用と労働問題、社会保障の基本的な仕組みについて理解している。</li> <li>・考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の日本経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

##### (3) 指導内容及び評価計画

（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
導入(1)	<p>【学習課題】〈単元を貫く問い〉「日本の社会保障の持続可能な方向性は何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の問題点</li> </ul>	<p>【ねらい】少子高齢社会の問題点に対して、知識のない段階で解決策を考え、単元のまとめ時と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の問題点を一つ選び、解決策を考える。</li> <li>・考えた問題点をペアで共有する。</li> </ul>			●	<p>(B)少子高齢化から派生する問題を予想し、解決の方向性を立てている。</p> <p>(C)他者のワークシートを参照させる。</p>	・ワークシート
第1次(2)	<p>【学習課題】〈問い〉「六次産業を取り入れることで、地域経済はどのように活性化するか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業、農業の現状と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業と農業の現状を法整備から理解するとともに、データから課題となる点を読み取る。</li> <li>・地元の特産品や、地場産業を調べる。</li> </ul>	●			<p>(B)適切に情報を収集し理解している。</p> <p>(C)教科書や資料集を再度確認させる。</p>	・小テスト
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六次産業を考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の経済を盛り上げる六次産業を考案し、議論を通してよりよい案に仕上げる。</li> </ul>		●	●	<p>(B)地域の課題の解決にアプローチする案を考えている。</p> <p>(C)机間指導で助言する。</p>	・観察

第2次(3)	<p>【学習課題】〈問い〉「どのような労働問題が起き、それに対しどのように解決が考えられるか」</p>	<p>●</p>		<p>(B) 資料を適切にまとめ、説明ができています。</p> <p>(C) 机間指導で助言する。</p>	<p>・ワークシート</p>	
	<p>・労働法と労働環境の変化</p> <p>・労働問題</p>	<p>【ねらい】現代日本で生じている具体的な労働問題についての解決策を、他者の意見を参考にすることで、多角的に考察し、自分の意見を深めて記述できるようにする。</p> <p>・労働法と労働環境の変化について、グループで情報を集め、整理する。</p> <p>・男女差別、外国人差別、ワーキングプア、過労死などの労働問題について、データから現状をまとめる。</p>		●	<p>(B) データを適切に分析して現状の問題点を記述している。</p> <p>(C) 机間指導で助言する。</p>	<p>・ワークシート</p>
	<p>・問題に対する解決策の提案</p>	<p>・具体的なニュースに対し、解決策を提案する。他者の意見を踏まえ、自分の意見を深める。</p>		●	<p>(B) 具体的な解決策を記述している。</p> <p>(C) ワークシート返却時に助言をする。</p>	<p>・ワークシート</p>
第3次(3)	<p>【学習課題】〈問い〉「日本の社会保障のあるべき方向性は何か」</p>					
	<p>・社会保障の概念の理解</p>	<p>【ねらい】社会保障の概念と、税と保険料の性質を理解した上で今後の日本の社会保障のあるべき方向性について、客観的なデータを根拠に理由を記述させる。</p> <p>・グループで話し合いながら社会保障の性質や概念を理解する。</p>		●	<p>(B) ニュースを適切に要約し、具体的な解決策を記述している。</p> <p>(C) 机間指導で助言する。</p>	<p>・観察</p>
	<p>・日本の社会保障制度</p>	<p>・日本の社会保障制度について、グループで情報を集めてまとめる。</p>	●		<p>(B) 資料を適切にまとめ、説明ができています。</p> <p>(C) ワークシート返却時に助言をする。</p>	<p>・ワークシート</p>
	<p>・社会保障のあるべき方向性</p>	<p>・社会保障制度のあるべき方向性について、自分の意見をまとめ、根拠となるデータも記述し、発表する。</p>		○	3 (4) ア参照	<p>・ワークシート</p>
第4次(1)	<p>【学習課題】〈問い〉「少子高齢社会において持続可能なしくみをどのようにデザインすべきか」</p>	○		○		
	<p>・現状のまとめ</p> <p>・政策提案</p>	<p>【ねらい】日本社会が抱える問題点をまとめ、少子高齢化の進む日本において、今後どのような政策を行うべきか、地域振興、働き手のケア、少子化対策、いずれかの視点で考えさせる。</p> <p>・地域経済、労働、社会保障について現在起きている問題点をまとめる。</p> <p>・今後の日本で求められる政策に優先順位を付け、政策の方向性について自分の意見を記述する。</p>			<p>【知】</p> <p>(B) これまでの学習内容をまとめることができています。</p> <p>(C) 答案返却時に助言をする。</p> <p>【主】</p> <p>3 (4) イ参照</p>	<p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>

## (4) 評価問題（評価材料）及び評価規準

## ア ワークシート（A）の評価規準【思考・判断・表現】

- ・社会保障や財源、自助・公助の概念を基に、日本の社会保障のあるべき方向性について俯瞰して考え、その根拠を論理的にまとめている。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・保障の規模と負担のバランスについて矛盾のない意見を書くことができています。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・保障の規模と負担のバランスについて矛盾の無い意見を書き、かつ客観的な根拠に基づいて優先事項を考えている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例
・保障の規模と負担のバランスについて意見を書くことができない、もしくは意見を書けたとしても矛盾がある。 →ワークシートの返却時に助言を行う。

## イ ワークシート（B）の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

- ・社会保障制度のあるべき方向性について、自分の意見をまとめ、根拠となるデータを示しながら記述する。

## 判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・複数の活動を通して身に付いた力を自覚して記述し、少子高齢社会の諸問題にどのように向き合うべきかを記述している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・複数の活動を通して身に付いた力を自覚して記述し、少子高齢社会の諸問題をどのように向き合うべきかを、理由とともに具体的に記述している。
「努力を要する」状況（C）と判断される例
・複数の活動を通して身に付いた力を記述できていない。少子高齢社会の諸問題に向き合うべきかを記述していない。 →ワークシート返却時に助言する。

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

社会保障や財源、自助・公助の概念を基に、日本の社会保障のあるべき方向性について俯瞰して考え、その根拠を論理的にまとめる。【思考・判断・表現】

## (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項
導入	・本時の学習課題	・本時の学習課題を確認する。	・学習課題を提示する。
展開	・意見共有・議論  ・発表	・事前に準備した意見カードを、ロイロノートの提出箱に出す。 ・(説明者) 意見を発表する。聞き手から出た意見をワークシート(A)にメモする。 ・(聞き手) 提出箱の資料を見ながら、発表を聞き、質問をして意見を掘り下る。  ・班長が班員から出た意見を簡単にまとめ、資料を提出箱へ提出する。 ・提出箱を全員で見に行き、資料を読む。 ・指名された班長が発表する。	・質問の仕方や、根拠の妥当性の判断基準について説明する。 ・机間指導を行い、操作や発表の仕方をアドバイスする。  ○ワークシート【思考・判断・表現】

まとめ	・振り返りの記入	・ワークシート(B)に振り返りを記入する。	・労働と社会保障はつながっていること、財源と給付のバランスの取り方が難しいことを伝える。
-----	----------	-----------------------	--

## 5 成果と課題

## (1) 構成、問いの工夫について

「少子高齢社会における持続可能な仕組み」を軸として、中小企業と農業（六次産業）、労働問題、社会保障の3つのテーマで問いを用意し、小レポートを課した。3回の取組を通して学んだことや気付いたことを継続的に記述できるようにワークシート（B）を作成し、単元のまとめ及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価に使用した。3回のステップを踏む構成は、生徒に見通しをもって取り寄せやすく、ワークシート（B）を使うことで単元の意図を伝えやすかった。一方で、各テーマに集中するあまり、全体のテーマである「少子高齢社会における持続可能な仕組み」という軸を意識していないレポートが数多く見られた。これは、指導者による意識付けが足りなかったことが原因だと反省している。

## (2) 教材の工夫について

レポートの型は、教員がロイロノートで作ったものを生徒に配付した。「ここ」と書かれた四角などは動かせるようになっており、共有したときに自分の意見がどのような立場なのかを視覚的に分かりやすく、かつ1枚で意見がまとめられるように工夫した。

生徒は他者のカードを見て、意見の類似点や相違点を効率的よく見つけることができ、その後の話し合いへスムーズに移行することができた。

カードW4-1 意見概要		4桁番号( ) 名前( )
①社会保障の規模 縮小 ← 変えない <b>ここ</b> ↓ → 拡大	○社会保障の規模と負担のバランスをどう取るか？ (①・②の理由を含む)	ここに意見を書く
②負担 減 ← 変えない <b>ここ</b> ↓ → 増	○優先すべき課題の設定理由・根拠(③の理由)	ここに意見を書く
③優先すべき課題(優先度高い順に並び替え) 1番 子育て支援      2番 高齢者医療 3番 現役世代の保障      4番 その他( )	○具体的な施策・意見など(④の理由や方法を含む)	ここに意見を書く
④[ ]における民間活用 民間 ← <b>ここ</b> ↓ → 政府		ここに意見を書く

## (3) 生徒の取組について

前次の活動（労働問題について考察する授業）によって学んだことを生かし、意見を組み立てることのできる生徒が多く見られた。一方、活動時間が限られていたこと、またマクロな視点で考えた結果、自分の意見の問題点を十分に検討されずに書かれたレポートや、具体性に欠けるレポートが見られた。また、出典を明記し、客観的な根拠に基づくことをポイントにしたが、客観的な根拠を探す方法についての指導が不足していたため、出典の不明なレポートや出典資料とのつながりが見えない記述も多かった。これについては、2回目までのレポートを返却する際に、指導・助言をきちんと行うべきだった。

話し合いでは、生徒が主体的にワークを進めようとする様子を見取ることができた。これまでのグループ活動を継続した成果だと考えている。またレポートには書けなかったが、授業内の話し合いの中で、「政策の変更により新たに生じる問題点を、いかにケアするか」という視点で話し合うことのできたグループもあり、生徒の学びが深まっていることも確認できた。この視点に生徒の力で辿り着いたことは大きな成果である。

## (4) 評価結果から分かること

	A評価	B評価	C評価
「思考・判断・表現」	20.0%	73.3%	6.7%
「主体的に学習に取り組む態度」	39.7%	55.9%	4.4%

「思考・判断・表現」については、(3)で述べたように根拠の明示ができておらず、A評価に到達できない生徒が多かった。レポート作成の事前指導や返却時の助言をきちんとするべきであったと反省している。「主体的に学習に取り組む態度」については、理由を具体的に記述できている生徒が

想定より少なかった。

A評価とした生徒の記述例を赤字で以下に示す。

「思考・判断・表現」	(社会保障の規模と負担のバランスをどう取るか?) <ul style="list-style-type: none"> <li>・負担を増やして社会福祉の規模を拡大</li> <li>○従来の高齢者医療+子育て支援も行える</li> <li>○保障を受け取る人が増加→差別意識が薄くなる</li> <li>×現役世代を中心に一人一人の負担が増える</li> </ul>
	(優先すべき課題の設定理由・根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての負担への不安から少子化が進行している</li> <li>→優先的に支援することで金銭的負担を減らす</li> <li>・負担の中心である現役世代の保障を増やすべき</li> <li>・第一次ベビーブームの世代が現在 72~74 歳</li> <li>→高齢者の増加が多少緩やかになるはず</li> </ul>
	(具体的な施策・意見など) <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間よりも政府の方が安定性がある</li> <li>・現役世代の保障だけは民間中心にする</li> <li>○必要な保障の種類を自由に選択できる</li> <li>○税金や保険金の負担を抑えられる</li> </ul>
「主体的に学習に取り組む態度」	(単元の活動のふりかえり) <p style="color: red;">社会保障の未来図を考えると、何が必要か、可能なのかを追いすぎていると思いました。人の望みや思いに寄り添う必要を感じました。</p> <p>(学習を踏まえ、少子高齢社会の諸問題の解決策を考えると、何の課題をどのように考えていきたいか)</p> <p style="color: red;">社会保障を進めていくには何が求められているのかを考えていくべきだと思います。ニーズに合っていない保障は無駄になってしまうし、求められていることに対応できないと困る人が出てしまうので、ニーズの把握が大切だと思います。</p>

「思考・判断・表現」の記述例は、箇条書きではあるが、意見ごとに根拠となる資料を用意していた。政府が子育て支援をすべきであるという一貫性もある。このようなA評価に到達する生徒を増やすためには、自分の提案による問題点について話し合わせる時間を確保し、話し合い後に自分のレポートを修正し、再提出させるべきであった。他者の意見を聞き、自分の不足する視点をレポートに盛り込めば、「自分の意見の問題点をどのようにケアするか」という点まで考えられ、より多くの生徒がA評価に到達したのではないかと考えている。

一方、「主体的に学習に取り組む態度」の記述例からは、生徒が可能かどうかを考えるだけでよくないと気付いていることを見取ることができる。この観点については、全体的に多くの生徒が主旨を理解して記述することができていたが、具体性を含ませた記述は思ったよりも少なかった。評価の観点に関するポイントを、問いから分かるように提示すれば、生徒が具体性をもって記述することができたのではないかと考えている。